

インターバンクの声（2016年2月16日）

15日は米国市場が大統領記念日のため休場だったので、ロンドン市場がどれだけ動くのか気になっていたが、アジア時間の流れを引き継いでドルが対円、ユーロで買い進まれた。アジア時間では春節休暇明けとなった中国上海総合指数は休暇入り前の水準から僅かに下げたまま取引を終えたが、日経平均株価が大幅な上昇を見せ、欧州株の買戻しも大幅となったことで、ロンドン市場でもリスク回避姿勢が後退した。昨日は各国要人からの発言も相次ぎ、中国では人民銀行の周総裁が「人民元安が継続するとの見方に根拠がない」として、事実上は当局が人民元を支えるとした。安倍首相も為替相場の急激な変動は望ましくないと発言、今月下旬に上海で開かれる20カ国・地域（G20）会合での対応を働きかけると語った。市場への反応が顕著だったのが欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁の欧州議会での証言で、「このところの金融市場の混乱、もしくはエネルギー価格の長期的な下落でユーロ圏のインフレ率が低水準に留まる状況が長引けば、3月のECB理事会で緩和に踏み切る用意がある」との発言だった。このためユーロは、ロンドン市場の早朝時点の1.12ドル前後の高値水準から70～80ポイント売り込まれた。市場には先週末で一旦金融市場の混乱も落ち着いたはずとの見方も出始めているが、肝心の米経済の後退懸念が薄まるのかどうかを確かめる必要も残っており、まだまだ油断は出来ない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。